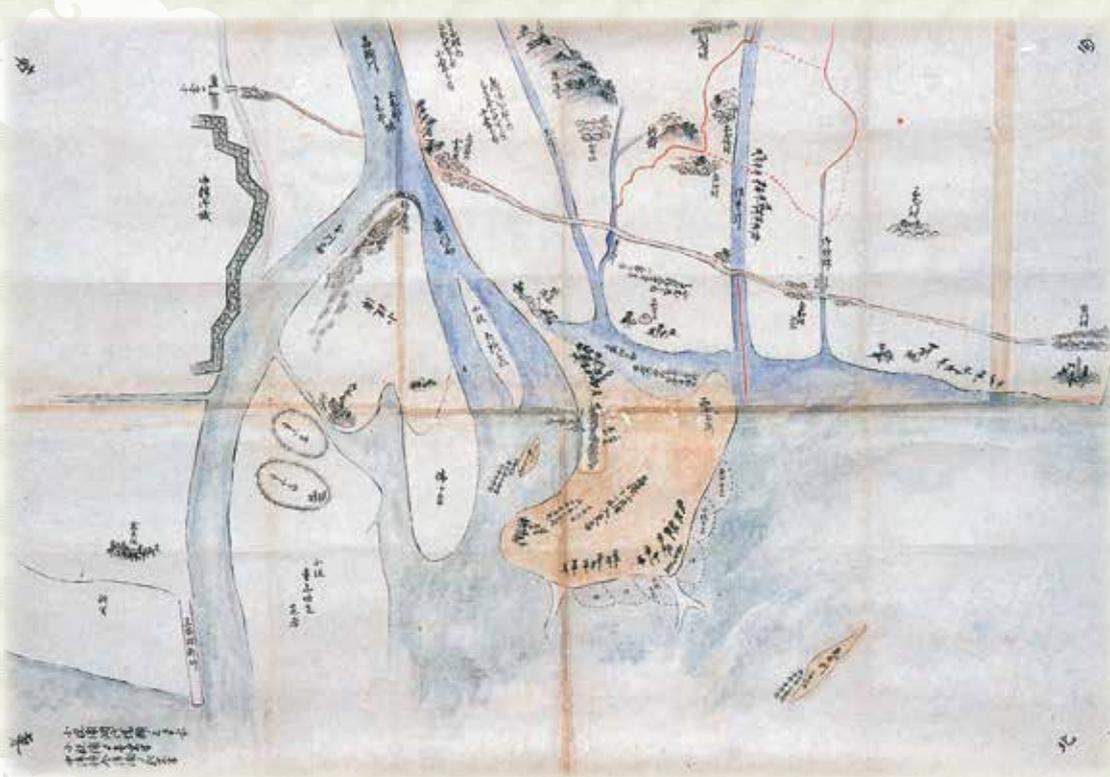


ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



古地図

当時の川の呼称は場所によって山国川・高瀬川・中津川・裏川と異なっていた。明治8年(1875年)山国川と統一された。



山国川の現在の姿

写真:国土交通省山国川河川事務所提供

第3回

吉富町と中津市小祝

小祝島の分離

今から370年程前の江戸時代、小笠原長次公が中津藩を治めていた正保(1645年~1648年)の頃は、現在の吉富町と中津市小祝の間には川が無く地続きで、海に面した地域に小祝村という1つの村がありました。

当時は、中津市小祝の東側を流れる現在の中津川が本流であり、その後、寛文9年(1669年)の大洪水によって土地が押し切られ吉富町と中津市小祝の間に新しい川の流れができたそうです。この新しい川の流れは裏川と呼ばれました。

小倉藩と中津藩に属した小祝村

江戸時代、吉富町界木と豊前市三毛門の間を流れる御界川(みさかいがわ)が小倉、中津両藩の境界でした。

吉富町内の大部分は中津藩に属していましたが、小祝村は小倉藩に属していました。このため、両藩の領地が入り組み、また、中津城下のすぐ近くに小倉領である小祝村があることから、江戸時代末期の慶応3年(1867年)12月、中津藩からの申し出によって、小倉領の小祝村と中津領の直江村・土屋村・別府村の佐井川以西の土地を交換し、小祝村は中津藩に編入されることになりました。

明治22年7月の長雨による大洪水で現在の姿に

市町村制施行により明治22年(1889年)4月に東吉富村(大字幸子・別府・鈴熊・楡生・今吉)と高浜村(大字小犬丸・小祝)が誕生しました。その年の夏、二ヶ月にわたる長雨が続き、7月5日には大洪水となり、支流である裏川を突っ切り、本流である中津川は土砂に埋まり本流と支流の姿が逆になりました。

その後、明治29年(1896年)に福岡県と大分県の県境の位置が中津川から本流となった裏川(現在の山国川)に移り、小祝村も東側(現在の中津市小祝)が大分県中津町(現在の中津市)に、西側(現在の吉富町大字小祝)が福岡県築上郡東吉富村に編入されることになりました。